

ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部 会 名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記録者	池崎（環境モデル都市）
開催回数	第7回			
開催日時	平成21年12月7日（月）18時30分～20時50分			
開催場所	クリーンセンター			
出席者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	水俣自然学校	小里
	熊本学園大	西村	環境対策課	岡本
	エコネットみなまた	山下	クリーンセンター	福田
	婦人会	前田	環境モデル都市推進課	川野・池崎
	市議会議員	西田	出席者 計	12 名
欠席者	水光社	廣田	市議会議員	中原
	エコタウン協議会	田中	商工観光室	光田
	茶生産者	松本	教育旅行プランニング	森山
	リサイクル推進委員	桑畑	欠席者 計	8 名
内 容	1. 前回の確認、環境モデル都市フェスタの報告等 ・ 前回の確認：会議録参照 ・ 環境モデル都市フェスタの報告 事務局：当日の参加は230名程度だった。内容はよかったとの感想を多くいただいたが、参加者が少なかったのが残念だった。 進行役：ごみゼロ推進フォーラムの流れとしては、①ZW（ゼロ・ウェイスト）宣言、②水俣市の取り組み紹介、③パネルディスカッション、という方が、パネルディスカッションでも深い議論ができたのではないかと考えている。フェスタまでの円卓会議の議論では、宣言文の中身を作るほうが精一杯で、フェスタ全体の構成まで考える工夫が足りなかったのではないかと考えている。当日の雨や冷え込み、インフルエンザ等の影響はあるが、人が少なかった。 メンバー：枝廣さんの講演はよかったが、フォーラムが早口で残念だった。もう少し先を見る議論までできればよかった。ペロタクシーが水俣市内を走り、多少でも乗れた人がいたのは、よかった。桜まつりやエコタウンの祭り等でも利用していければ。熊本市では来年度、4人乗りのものを導入するようだ。 メンバー：イベントの中身まで円卓会議で議論できなかったのが残念だった。日程的にも、いろんなイベントと重なってしまった。 事務局：日程設定は、会場が空いている日で取らざるを得なかった。日程設定やプログラム、参加の呼びかけ等、反省すべきことがある。 メンバー：枝廣さんの話にあった、マイ箸やブータンのGNHのこと等、もっと多くの人に聞いてもらえたらよかった。もったいなかった。また枝廣さんの話をどこかで聞ければ。 進行役：環境モデル都市推進委員や円卓会議のメンバー、地域の役員の方にも参加してもらえたのか。イベントの中に、彼らが活躍できる場があればよかったのではないかと。 事務局：呼び込みのために、健康まつりや動物愛護祭を同時開催としたが、逆に人がとられてしまった面がある。 環境対策課：周辺自治体にも参加を呼びかけたが、3連休ということもあり、イベントが集中した時期に重なってしまったようだ。 進行役：市役所の職員もあまり来ていなかったようだが…。 事務局：スタッフとして参加してもらった職員もいる。職員の参加は、動員をかけなければなかなか難しい。 進行役：環境モデル都市の庁内委員会での議論や、そこの情報共有も今後計っていかなければ。水俣市には、いろんな環境に関する団体があるのに、うまく連携がとれていない。ZWへの道のチラシに掲載されているイベントに関わってきた人たちがフェスタに集ってZW宣言ができれば一番よかったのだが。 メンバー：前夜の交流会についてもすごく気になった。前夜祭の参加者は、市役所から15名、市外から5名、円卓会議から6名、環境大学から4名の計31名。ZWについての詳しい話を出来る人はそう多くなく、それらを繋げられる人がいなかった。円卓会議からの出席者も少なく、残念だった。参加者の自己紹介も一番最後になり、“こんな人もいたんだ！”という感じで、せっかくの料理ももったいなかった。前夜祭終了後、参加者がまだいるにもかかわらず、後片付けをすぐに始めたのも気になった。			

内 容

メンバー：ZW宣言が水俣の人たちに届かなかったのは、なぜだろう。
 メンバー：環境対策課・モデル都市推進課から他課への影響が弱いのでは。
 メンバー：一番根本的な問題は、ZW円卓会議の場で、イベント内容まで議論できなかったこと。宣言をつくるので精一杯だった。建設的な意見を出していきたい。
 メンバー：フェスタ前に、ZW円卓会議では宣言文の作成に取り組んでいたが、集客やイベントの中身、どこまで責任を負うのかという合意はなかった。反省すべき点。
 進行役：フェスタについては、6月の円卓会議で提案があり、11月にZW宣言をするということが決まった。それに向けて作業部会をつくり、準備してきた。
 メンバー：どこか自分たちの気持ちの中で、役所がしてくれる、という気持ちがあったのではないか。
 メンバー：最近徳島県上勝町に行ってきたので、その報告もしたい。ZW自治体と連携を図っていくうえで、お互いの成功体験を学びあっていければと思っている。まずは草の根レベルでのつきあいをしてベースを築き、そこから行政レベルでも協力していければ。町田市の「町田発・ゼロ・ウェイストの会」が1月19～21日に水俣を訪れる。ぜひ懇親会をと思い、19日の夜に準備をしている。個人や実務担当者、いろんなレベルで議論していければ。
 メンバー：他の自治体では、行政だけでなく、市民やNPOがZWに熱心に取り組んでいる。そういうところも今後参考にしていければ。

2. 燃やすものの組成調査結果について

グリーンセンター：11月27日に、生ごみ回収地域から適当にとって燃やすものの組成調査を行った。結果は資料のとおり、燃やすもののなかに混入していた資源となるものの割合は、57.1%。
 組成調査を始めた平成16年からの5年間（平成17年は実施していない）の中で、最も資源率が高かった。
 内訳は、容積比で、廃プラ37%、紙類29.6%、燃やすもの24.1%だったが、重量比では燃やすもの42.9%、紙類21.4%、生ごみ14.9%、廃プラ11%だった。
 進行役：生ごみを回収していない地区の実態も知る必要があるのではないか。
 グリーンセンター：基本的には年1回の調査を行っているが、そこまでやる労力が足りない。
 メンバー：毎年調査後に混入率のデータは出てくるが、その対応についても議論していく必要があるのではないか。啓発だけでは難しい面がある。
 メンバー：調査の連絡が直前にあり、参加できず残念だった。燃やすものの中の資源となるものの混入率は、年々上がってきている。市民の意識は向上してきているのだろうか。根本的な議論をしないといけない時期にきているのではないか。
 グリーンセンター：強制力を伴う方法も考えなければいけないのかもしれない。
 メンバー：全体的にどこが重要なのか、どう仕組みづくりを進めていくのか、ということを考えていかなければ。何が燃やすべきものなのかという基準が市町村によって様々（例、紙おむつなど）。
 メンバー：12月の議会でも、提案して話をしたい。
 事務局：安城市では、毎月市報で丁寧に詳しく報告していた。啓発ひとつとっても、様々な方法がある。どのような方法をとるかも含めて今後議論していかなければ。

3. 今後のゼロ・ウェイストに向けた取り組みについて

・使用済小型家電の回収モデル事業について

環境対：国のモデル事業に採択され、12月1日から回収が開始されている。回収方法は次の3つ。①イベント時における回収：環境モデル都市フェスタ当日にも回収ボックスを設置し、小型家電18台を回収できた。②市役所やスーパー等、市内5箇所の定点ボックスによる回収、③資源ごみの回収とあわせて、モデル地区内にある全ステーションでの回収。
 今回のモデル事業は、経済産業省、環境省が事業家の可能性を調査するためのもので、市が事業化するというわけではない。
 ぜひ協力をお願いしたい。

・円卓会議の推進体制について

メンバー：フェスタで実際にゼロ・ウェイスト宣言を行ったが、今後どういう体制をとってゼロ・ウェイストを進めていくのか。社会をどのような目で見ると、いったい枠組みを考えていかなければならない。
 ミクロレベル（個人、団体、集まり、区）、メゾレベル（市）、マクロレベル（ZW宣言自治体の連合、国）の3つの枠で、枠組み間での連携を取っていくことが必要。そのために、①各レベルにおける役割の確定、②各レベルでの連携体制の構築に取り組む、それぞれのレベルでの取組内容の整理（役割分担）して、各レベル間での協働、宣言といった流れになるのではないか。
 メンバー：水俣全体でZWに向けた進み方を考えるうえでは、他の円卓会議との連携をどのようにしていくのかも考える必要がある。
 進行役：「環境学習」や“食と農と暮らし”の円卓会議も、ZWに関わってくる。他の円卓会議でも、そのような視点を持って話をしてみようといのではないか。
 メンバー：市民の人にとっては、ZWに取り組むことによるメリットが明確になればよい。
 メンバー：市民は、意識の面ではまだそれほど進んでいないのではないか。だから、意識づくりを進めることも含めて、なぜZWをするのかといったところを押さえる必要がある。

内 容	メンバ－：ふれあい一番街では、マイバッグを持ってきたら特になるポイント制度を始める。 メンバ－：最近、小さな新しいお店も増えてきている。そういうことをまず考えていけたら。 メンバ－：うまく連携がとれていないことも問題、課題のひとつである。 メンバ－：“環境モデル都市”といっても、環境にいいことが目に見えない。外から来た人が、水俣に来て、「水俣ってすごいね」って思ってもらえたり、地元の人が日常的に、「ああ、いいな」って思えることがない。 進行役：各メンバーがここでの議論を持ち帰って、また持ってくるのはどうだろうか。予算の申請の経過はどうなったか。 事務局：現在、担当者レベルでの話し合いが行われているところである。 メンバ－：ZWのパンフレットを配布した後、市民の意識がどの程度変化していくのかといった調査にも費用を充ててもらいたい。 4. ごみステーション調査について 春になって暖かくなったら実施できるよう、準備を進めていく。 5. 給茶スポットについて メンバ－：助成金は、デザイナーへのデザイン料、水俣茶のブランド化、それを広げるための給茶スポットに使っていきたい。今年中にパッケージが決定出来る予定。給茶スポットの名前も、「茶飲み場」など、コピーライターにお願いして考えてもらっている。それを使って給茶スポットを運営していけるような準備を進めているところ。 進行役：事業化は、リサイクルからリユースへの流れのための先進的な動力となる。 メンバ－：水俣茶のブランドとは？ メンバ－：まずは水俣茶の周知を図り、様々なところに広めていきたいと思っている。いまのところ、水俣でとれたお茶は水俣茶とし、その中でランク付けを行い（最高ランクは、無農薬・無肥料）、デザインを少しずつ変えたい。販路も、都会の雑貨屋さんなど、今までとは違うところに持っていき、すそ野を広げる役割も持たせたい。 メンバ－：給茶スポットはぜひ進めてもらいたい。 水俣では以前、自販機を減らそうという意見があったが、実際にどの程度あるのか調査することも必要なのではないか。 メンバ－：以前調べたことがあったが、そのときは道端のもので9百数十台あった。 調査の中で、自販機の正当化かもしれないが、地域の街灯代わりになっているところもある、ということもわかった。 進行役：愛知県豊田市では、市の公共施設に設置してあった自販機を撤去している。 先進事例については、首都コンテストでも集めているので、紹介できればよい。 メンバ－：「未来の食卓」といった映画も、上映会などで紹介できるとよい。 事務局：給茶スポットについては、宣伝用ののぼり等の費用を予算に組んで申請している。 進行役：給茶スポットやごみステーション調査についても、作業部会を設けて具体的な話し合いができればよい。
次回の日程	1月26日(火) 18時半～ @クリーンセンター